

大崎市民病院医療事故の公表について（包括的公表）

平成31年 4月 1日～令和元年 9月30日に発生した医療事故は次のとおりです。

レベル3 b または 4 a に該当する件数

3 b	濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化，入院日数の延期，外来患者に入院，手術，骨折）	13件
4 a	永続的な障害や後遺症が残ったが，有意な機能障害や美容上の問題を伴わない	0件

このうち，他の医療機関の事故防止につながると考える事例を，下記のとおり掲載します。

No.	概要	原因	改善・対応策
1	造影CT検査中にアナフィラキシーショックが起こった。ボスミン筋注の反応が著しく悪かった。血圧回復にボスミン2Aを要した。その患者はβ遮断薬服用中であった。	造影剤によるアナフィラキシー反応	β遮断薬服用中のアナフィラキシーショックには，ボスミンのみならず，グルカゴンの投与も考慮する主旨を周知してポスターをCT検査室に掲示した。
2	高齢者に，術前の静脈血栓塞栓症予防のため，常用量の抗凝固剤を投与した。腸腰筋血腫を合併した。	未分画ヘパリンの合併症としての出血	高齢者においては，抗凝固剤の用量を慎重に検討する。
3	全身麻酔導入中にアナフィラキシーショックが起こった。	全身麻酔薬によるアナフィラキシー反応	全身麻酔導入中にもアナフィラキシーショックが起こることを予測して注意深く観察する。